



発行 KOA 森林塾 (事務局)
0265-70-7065
編集 坂野慎治
題字 島崎洋路

『樹は、その後...』
「見学、枝打ち」
通年コース第十・十一回開催報告

伐出された木はどこへ行って、どうなるのか。一日目の見学は、長野県森林組合連合会の伊那木材センターと有賀建具店さんにお邪魔していろいろなお話をお聞きしてきました。

午前中は、山小屋で早川講師から木材センターのいろいろやここ一年間の樹種別の平均価格などの情報を教えてもらってから長野県森林組合連合会の伊那木材センターへ。ここは県森連の木材センターのひとつで年間十九回の入札市売りが開かれています。最

近は少し材価が上向きだそうですが、それでも平均単価は十年前の約半分程。造材は直材で、枝払いは平滑に、採材は市況を見ながら径級に合わせ、どういふふうに通材すればよいか解からないときは、お問合せくださいとのことでした。

大芝高原で昼食をとった午後は、有賀建具店さん。ずらつと並んだアームチェアや六十四種の薬箱、いろいろドア、文庫本型の板見本にピラミッド型に重ねられるトレイ...。長年の木との付き合いから体得された木の性質や特徴などについて、見本を手にとりながらいろいろとお話をしてくださいました。どんな材でも使えるかと思いい、丸太の良い所を見て板に挽く。棧に積んで雨と風にあてながら数年待ち、さまざま家具へ。リビングにダイニングに気に入った材や形の一品を注文してみませんか。

二日目は、保科先生の枝打ち。午前中はぶり縄作りと木登り練習。まずはロープの末端のアイ加工。ロープは端に輪があると何かと便利です。そしてこれに手木を通して、ぶり縄の出来上がり。小屋横での練習では、降りることから随分高くまで上ってしまってからでは大変なので。

午後、富原のヒノキ林に移動して実際に枝打ち。枝打ちは目的を明確にしながら。柱材生産のためなのか、柱は三寸五分なのか、四寸角なのか、年数をかけて目の詰まった柱を作るのか。あるいは死節のない大径材を作りたいのか...。そして、付加価値を上げる施業ですので、材に傷を残さず、適期の間伐の後、厳冬期を除いた「彼岸から彼岸まで」に、育林の重要な施業の一つを量より質で、丁寧に一本一本枝を打ちました。

早川講師による森林組合や県森連について、伊那木材センターの概要、業務形態・樹種別平均価格推移・入札手順、在来軸組み木造建築の木構造についての講義。

9時50分 分乗して、伊那木材センターへ向かう。

10時15分 センターの遠山さんから価格の説明を受ける。径級による材の使い方の違い、造材の方法や良し悪しを教えてください。

11時40分 大芝高原へ向かう。

12時10分 大芝高原の池のほとりで昼食。

13時15分 有賀建具店さんへ。業務内



造材の仕方



どんな材でも

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。

10月12日(金) 見学
今回の内容
通年コース 第十・十一回

13時15分 有賀建具店さんへ。業務内

12時10分 大芝高原の池のほとりで昼食。

11時40分 大芝高原へ向かう。

12時10分 大芝高原の池のほとりで昼食。

13時15分 有賀建具店さんへ。業務内



先端に輪を作る



一本一本丁寧に

容量や主な製品の紹介を授け、奥様お手製のケーキと珈琲を頂く。続いて様々な材について見本を見ながら用途などの説明をしていただく。「使えない木はない」という心強いお話。木材市場はもちろろんチップ工場や建設現場におもしろい木があるそうです。

16時20分
端材をいただいた後、小屋へ。

16時40分
講師総括。終了、解散。

10月13日(土)
枝打ち

8時30分
島崎先生の山小屋に集合。日程説明の後、保科先生から五十年に及ぶ山とのか

かわりや枝打ちの意義・目的・方法、育林の考え方を講義していただく。また、枝打ちの状態がわかる輪切り見本を見せていただく。

9時10分
班分けの後、ぶり縄づくり。15mに切断した麻縄の両端にアイを作る。口差しと編み込みは別工程。本線を左手に持ち、解いた先端は右手に持って輪を描く。真ん中の一本、その右、左と口差し。三本がそれぞれ違う方へ出ていければ大丈夫。編み込みは一越し一差し。アイが出来たら手木をセツト。

10時30分
小屋横の建石さんのヒノキ林で、ぶり縄木登り練習。安全帯を装着し、ぶり縄で登ってみる。降りる時は両

足と両手で木を抱えて。一段登っては降りる練習を繰り返す。二回目以上に挑戦。

12時10分
昼食。ポカポカ陽気なので公園の芝生の上で。

13時
分乗して富県の高鳥谷山麓の現場へ。

14時
駐車場で保科先生愛用の鉋などを見せてもらって、鬱蒼としたヒノキ林へ。先生の枝打ち実演の後、各々保残木候補を選んで枝打ち。ぶり縄だけでなくワンタッチラダーやあぶみなどの道具も使ってみました。量より質、丁寧に。重い枝は二段階に打ちましよう。

16時
作業終了。保科先生挨拶。

16時30分
小屋へ戻り、次回の復習の希望をお聞きして、講師総括。終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/秋田さん、今井(杉)さん、神田さん、工藤さん、小淵さん、佐藤さん、田村さん、中野さん、平野さん、水野さん、川越さん、園田さん

講師/保科先生、早川講師
スタッフ/川島、藤原、坂野



身体の中で決める

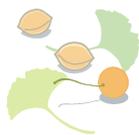
「チルホールを使って」
専門コース第三回開催報告

春、夏、秋と三日間の実践を三回、合計九日間の研修。最終回の今回は、主に一抱え以上の林縁のアカマツや傾斜地での樹高の高いカラマツをロープやチルホールを使って牽引伐倒しました。

今までのチェーンソーのみを使った伐倒では困難な状態の木、バーの届かないような大きさの木への挑戦。退避路の確保や安全確認、伐倒時の体勢といった基本は同じでも、チルホール等の設置での滑車位置や本体の場所、合図のタイミングと追い口の伐り進み具合、伐倒時の背側での

受け口伐りや追い口伐り：といった作業は如何だったでしょうか。

万全な装備と周到な準備で、退避路は必ず確保し、しっかりとした体勢で細心の注意を払って伐倒に入る。そして道具をととも大切にす。よく手入れをして、紛失しないように使う。そんなことが当たり前にできるようにするために、これから実践の機会をつくって経験を重ねていただければと思います。



一日目
10月4日(木)
〜6日(土)

8時30分
島崎先生の山小屋に集合。日程説明に続き、早川講師から作業時の注意事項等の説明。

9時
機材を準備して小屋の隣の旧日影区有林の現場へ。

9時15分
現場着後、体操をして、伐倒開始。退避路・体勢・チェーンソーの水平や受け口・つる・追い口を一つ一つ確認しながら伐倒を進める。

12時10分
小屋へ戻り、昼食

13時10分
伐倒再開。チルホールを使ったアカマツの牽引伐倒や矢を使った伐倒を行う。

16時20分
作業を終了し、小屋へ戻って、講師講評。解散。

二日目
8時40分
島崎先生の山小屋に集合。講師からロープやチルホールでの牽引伐倒時の合図の徹底のお願い。

9時
現場到着後、体操をして、昨日午後引き続きチル



梢に向かって

12時10分
ホルルを使った牽引伐倒を行う。方向や滑車位置の選定、機材設置の一通りを各自でやってみる。

13時10分
林縁を樹木散策した後、小屋へ戻り昼食。

15時20分
作業を終了し、小屋へ。

16時40分
講師講評、解散。

三日目

8時40分
島崎先生の山小屋に集合。講師からワイヤーの強度や架線集材についての講義を受ける。

9時30分
横山の傾斜地現場にて、ロープによる牽引伐倒開始。退避路の確保、立ち位置の確保を十分に。追いつきは一気に伐らず重心移動を見極めて。造材・枝払い。傾斜上方から。遠くに南アルプスと八ヶ岳、眼下にますみヶ丘や伊那市街地、高遠方面の景色を眺めながら昼食。

13時

伐倒再開。樹高の高いカラマツの伐倒が続く。なるべく高い位置に牽引ロープを取り付ける。造材した材は歩道避けて保残木に寄せ、落ちないように集める。

15時50分
作業を終了し小屋へ。

16時20分
講師講評。解散。お疲れ様でした。

参加者/石垣さん、小倉さん、高野さん
講師/早川講師
スタッフ/坂野

次回以降の予定

集中コース秋の部

11月1日(木)
11月3日(土)

KOA森林塾のエキスを集めた三日間です。樹を測る測樹やチェーンソーを使った伐木造材、携帯型のウィンチを使った簡単な集材まで一通りのことをやってみます。あれこれ盛り沢山になりますが、何か一つでもお持ち帰りいただければ幸いです。また、初日1日(木)の夕方は交流会です。

初日は9時に、二日目・三日目は8時30分に、島崎先生の山小屋に集合です。

第十二・十三回

12月7・8日(金・土)

炭焼き・きのこ菌打ち 復習

一日目は、移動式炭化炉を使って、できればドラム缶でも炭焼きをしてみます。材の仕込み、火入れの後は、ナラなどの原木にシイタケやナメコの菌打ちをしてみます。また、夕方からは少し早い忘年会。可能な方は、小屋宿泊で火の番のお付き合いを。なお、ご希望の方は、ほだ木を持ち帰ることが出来ますので、大きめの袋や紐をご持参下さい。

二日目は、炭出しの後、復習です。保科先生の山林見学・伐木造材を行います。なお、炭出し時はマスク・タオルなどが必要です。希望者は炭をお持ち帰り頂けますので、米袋などをご持参ください。8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

この時期、積雪や凍結の可能性がありますので、自家用車でお越しの場合は、スタッドレスタイヤやチェーンが必要になることがあります。道路状況等、事務局までお問い合わせ下さい。



リレ通信

山へ行きたくて 田村 雅代



とにかく、森林塾に行く日が待ち遠しくて仕方ありません。単純に、山に入れるから、いつしよに参加している人達の間、何かしら共通の想いがありそうで、それが安心出来て居心地がいいから。優しく指導して頂けるから(マイペースなおばはんが女だてらに危険なところに来ていないので、怪我をしない様に丁寧にという事で、錯覚してはいけないのですが、主人はこんな嬉しい)など、楽しみにしている理由はたくさんあるのですが、やはり、一番は、山に入って、道具を使って実際に作業出来る事の様です。

白さを教えてくれました。鉈で薪を割りながらの風呂焚き、熾きを使った魚焼き、新聞紙と柴で火をおこす事など。夏休みとお正月に泊まりに行った、母の里の和知には、茅葺きの家の中に、昔の暮らしがもつ凝縮されて存在し、猟師だった祖父の姿と共に、しっかりと私の心に刻み込まれてしまった様です。結婚して、娘たちが生まれ、その泣き声、笑い声を愛しいものと思う中で、主婦・母親としての生活が始まり、彼女の自立と共に責任から少し解放された時、田舎の子の血が大きく騒ぎ始め、ほとんどあきらめかけていた自分自身の願いを、もしかしたら実現させる事が出来るのではと思う様になりました。

子供頃、今はもう天然の田んぼビオトープになってしまった、祖母・父・母が作る山の田んぼで、働く大人達とそばで遊び、いろんな小さな生物・花と出会いました。暮らしの中では、祖母が、身体や道具を使う事の楽しさ、面

自分で食べるものは自分で作り、なるべく便利なものは使わず、山の中で暮らしたい。これが願いです。欲張りにも、母を看たいというもう一つの願いもあり、今すぐという訳にはゆかず、今出来る事をするという事で、森林塾に通い、畑もし、現金収入が必要な羽目になった時のために介護の仕事もし、気がついたら、梅干の土用干しをコツと忘れてしまっています。畑は、母に少し借りて、無肥料・無耕耘・無除草を試みていたのですが、堆肥も作り、草も野菜もスクスク育つ



て、手応えを感じ始めていた矢先、神奈川に帰っている間に母にきれいなハツサリ草を刈られてしまい(ひかないでとお願いして行ったら、ひかないで刈りました)、負けてないものかと新聞で知っていた「田舎暮らし応援団」に駆け込んで、棚田の小さな一枚を借り、堆肥を作り始めています。

神奈川と丹波を往き来し始めて一年半。あれこれ欲張りすぎている気がしないでもありませんが、あと一年半この調子でいければと思っています。三年やってみれば、身にしみる事もあるでしょうし、わかる事もあり、少し落ち着くでしょう。その先の事はわかりません。願いに向けて、その時出来る事をして生ききる、これがもしかしたら本当の私の願いかも知れない? いやいや、やっぱり、山の中で暮らしたい。三年でいいからやってみたい。

鳩吹山に感謝

ぜんまいは、柔らかく炒り煮にしたものが、子供の頃よく食卓に上りました。結婚してから、母から、干したものが他の野菜と共に荷物で送られてき、自分でもあく抜きを覚えたいと思っていたのですが、いつの間にか荷物の中から姿を消してしまっていました。小学生の頃、父と母と弟と四人で、ちょうど五月の連休あたりだったでしょうが、山菜採りに出掛け、父・弟・私が日当たりの良い原っぱでわらび採りに夢中になっていたと、母が山の急な斜面をどンドン一人で入って行き、しばらく経つと、ふきをいっぱい持って姿を現わし、自分もいっしょに採りにいき、たかつたのにとつらめしく思った記憶があります。ぜんまいはあまり見つからず、それでも、母は「これは食べられへん、こっちは食べられ」と教えてくれたのです

が、残念ながらはつきり区別出来ないまま、その家族行事も、子供達が大きくなり行われなくなりました。今回、大事に持って帰ったほんのわずかのぜんまいを、「こんなちよっ

か」と言いつつも、私が「教えて」と言うと、急に生き生きとして、裏でわらざり用にとつてあったわらを燃やし、念願だったあく抜きをやってみせてくれました。たかがぜんまいのあく抜きですが、私にとっては大きな喜びを鳩吹山から頂きました。イワガラミは、これも大事に持って帰り、翌朝、おみそ汁にしたところ(もちろんその前に、ちぎって、きゅうりの様な香りで驚かせてから)、柔らかくて、その美味しさに、二人でびっくりしました。鳩吹山と森林塾に、感謝

樹のコラム

ウリハダ楓と

ホソエ楓

どちらもカエデ科カエデ属、離弁花の落葉高木。楓科の葉は対生です。ウリハダ楓の樹高は八〜十mになり、胸高直径は二十五〜三十cm、まれに、樹高二十m・直径七十cmに達するものもある。ホソエ楓の樹高は十〜十五m、胸高直径は三十〜四十cm、大きいものは樹高二十m・直径七十cm程になります。

ウリハダ楓とホソエ楓、名前は似ていないのに、葉も樹皮もほとんどにそっくり。葉の形

で見分けるのはもう、お手上げと言ってしまうです。初めてお目にかかった時は、これって、楓なんだろうと思いましたが、どちらも、切れ込みのない葉、三裂する葉、五裂する葉があり、縁には重鋸歯、扇状五角形の中央の裂片は広三角形で大きくなっています。その有り様もこの二種はほとんどに良くにています。でもやっぱり、同じじゃないよと自己主張する区別点が見つかるんですよ。

では、その違いですが、ひとつは葉柄にあります。ウリハダ楓の葉柄は赤、ふたつ目は、ホソエ楓の葉柄には水かき状の膜があることです。このふたつの区別点は、葉の裏を観察するとすぐにわかります。樹皮も良く似ています。ウリハダ楓、ホソエ楓の若木の樹皮は暗緑色で黒の縦縞があり、たくさん木々の中でも目立ちます。並んで立っていると、どっちがどっち?と悩みますが、これにも、区別する目印があります。ウリハダかえでの樹皮には、ひし形状の皮目があり、ホソエ楓にはなく、なめらかです。

この二種は花の時も、とても良いですよ。ウリハダ楓は、五月頃に下向きに総状の花序を垂らし、淡い緑から黄色の花をつけ、春の風にゆらゆらと吹かれて涼しげに咲いて



ています。ホソエ楓の花は緑白色で、はじめは上向きに咲き、後にだんだん垂れ下がってきます。花での区別点では、ウリハダ楓の花は十〜十五個付け、花序は五〜十cmに、ホソエ楓は二十〜五十個の花を付け、花序は十cmになります。

名前の由来は、ウリハダ楓はその名のごとく、木の肌がマクワウリに似ていることに、ホソエ楓も名のごとく、葉柄が細長いことからきているそうです。因みにウリ楓という樹があり、この樹の樹皮もマクワウリのような模様です。できれば、この三種が並んでいる所を見てみたいものです。葉はこの二種とは容易に見分けやすいですが、三裂したり、五裂したり、分裂しなかったりと、なかなかの忍者ぶりです。花も観察する機会があったらぜひ見てくださいます。とってもかわいいですよ。

どちらも、雌雄別株ですが、まれに、同株になる事もあり、前年には雄花しか咲いてなかったのに、今年は果実

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062 (開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

が実っていた、なんてこともあるそうです。楓類は性転換するそうです。びっくり。材はこけしや、玩具、家具、簞、細工物、経木等に利用されます。板にひくと、楓はとて味のある木目が出て、私はすごく好きです。

そして楓は何と言っても、秋の紅葉ですよ。どちらも固体により、紅葉するものと黄葉するものがあるそうです。いずれも美しく、目を楽ませてください。

私にとって、楓という樹は非常に興味のある植物です。百種以上もあり、同じ種類なのに、さまざま葉の形があつて、すくおもしろく、紅葉の時のほっとするほどの美しさは、まさに、錦と言言葉が当てはまるほど素晴らしいですね。

「鷹」

あわりに

そろそろ山の樹々が装いをかえる。楽しみな秋。